

2018年度第1回福島競馬特別レース名解説

<第1日>

○ ひめさゆり賞

ひめさゆりは、日本特産のユリ科の多年草。別名「オトメユリ」。主に東北地方の一部に群生し、準絶滅危惧種に指定されている。5月頃から薄桃色の六弁花を咲かせる。花言葉は「飾らぬ美」「純潔」。

○ 吾妻小富士賞

吾妻小富士（あづまこふじ）は、福島市南西部に位置する吾妻連峰のひとつ。標高1,707m。頂上には外周約1.5kmにも及ぶ巨大火口が広がっている。西の中腹を磐梯吾妻スカイラインが通り、東山麓には微温湯（ぬるゆ）温泉がある。一帯は磐梯朝日国立公園に属している。

○ 川俣特別

川俣（かわまた）は、福島県伊達郡の町。阿武隈山地の西斜面の丘陵地帯に位置する。古くから絹織物の産地で、「絹の里」として栄えた。特産品として「川俣シャモ」が有名。

<第2日>

○ 浄土平特別

浄土平（じょうどだいら）は、福島市南西部の標高約1,600mに位置する湿原。福島市と磐梯高原を結ぶ磐梯吾妻スカイラインの中間に位置する。東に吾妻小富士、北に噴煙をあげる一切経山が見られ、観光の基点となっている。

○ 米沢特別

米沢（よねざわ）は、山形県の南東部の市。中心市街は上杉氏の城下町として発展した。米沢牛が有名であり、米沢織や人造絹糸の発祥地としても知られる。

○ 喜多方特別

喜多方（きたかた）は、福島県北西部の市。喜多方ラーメンや宮古そばが有名であり、座敷蔵、酒蔵などの蔵が点在する「蔵の街」としても知られる。

<第3日>

○ 雪うさぎ賞

雪うさぎは、雪解けの頃に吾妻小富士の山肌に出来る、うさぎの形の雪渓のこと。昔から地元の農家の人々は、この「雪うさぎ」が見えるようになると種まきを始めたことから、「種まきうさぎ」とも呼ばれ、福島に春を告げるシンボルとして親しまれている。

○ ラジオ福島賞

ラジオ福島は、福島県福島市に本社を置くラジオ局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 飯盛山特別

飯盛山（いいもりやま）は、福島県会津若松市の北東部にある山。戊辰戦争の際、会津藩白虎隊士19名が自刃した場所として知られている。墓前では、毎年4月24日と9月24日に慰霊祭が開かれている。

<第4日>

○ 医王寺特別

医王寺（いおうじ）は、福島市飯坂町にある寺院。真言宗の名刹で、開祖は空海と伝えられている。境内には、源平合戦において源義経の身代わりとなり、壮絶な最後を遂げたとされる佐藤継信・忠信兄弟の墓がある。

○ 福島民報杯

福島民報社は、福島県福島市に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 奥の細道特別

奥の細道（おくのほそみち）は、松尾芭蕉著の俳諧紀行。元禄2年（1689）旧暦の3月27日に門人河合曾良を伴い江戸深川を出発し、福島をはじめとする奥州各地を行脚した。その後、北陸の諸地を巡り、美濃から伊勢路に入ろうとした9月6日に大垣に到着するまでの600里（約2,400km）、約150日余の紀行が記されている。

<第5日>

○ 伏拝特別

伏拝（ふしおがみ）は、福島市を流れる阿武隈川西岸にある地名。地名は、日本武尊（やまとたけるのみこと）がこの地より信夫山を伏拝んだという伝説に由来するとも言われている。

○ 福島牝馬ステークス（GⅢ）

本競走は、平成16年に創設された重賞競走。牝馬の出走機会を広げ、牝馬路線の充実を図るという観点から創設された。平成19年から、国際競走に変更され、外国馬の出走が可能となっている。なお、第1着馬には同年のヴィクトリアマイルへの優先出走権が与えられる。

○ 花見山特別

花見山（はなみやま）は、福島市にある公園の名称。「福島に桃源郷あり」と称された同地は、個人の花弁（かき）栽培農家が長年の歳月をかけてつくり上げた。特にサクラとハナモモの花が咲く春の風景は圧巻で、全国から多くの観光客が訪れている。

<第6日>

○ 燧ヶ岳特別

燧ヶ岳（ひうちがたけ）は、福島県南会津郡にある火山。標高は2,356mで、東北地方最高峰。尾瀬国立公園に属し、日本百名山に選ばれている。

○ 福島中央テレビ杯

福島中央テレビは、福島県郡山市に本社を置く放送局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 桑折特別

桑折（こおり）は、福島県伊達郡の町。仙台伊達家発祥の地で、中心街は奥州街道と羽州街道の分岐点にあたる宿駅として発展した。また、菊花賞・天皇賞（春）・宝塚記念などを制したビワハヤヒデの生まれ故郷としても知られている。